

6-1 園舎内の構成の仕方

幼稚園の主人公は子どもたちです。ですから、園舎も園庭も、子どもたちの生活の場として、「子どものために」構成されています。子どもたちは、こうした環境の中で過ごす毎日の生活を通して、様々なことを学び、成長していきます。園舎内の構成は、こうした子どもたちの育ちを促すよう、配慮、工夫されています。

園舎内の構成



玄関です。

教師が庭を掃除して、保育室を整え、空気を入れかえて、子ども達が来るのを待ちます。



靴箱、傘立てなどが置いてあります。

朝登園してきた子どもたちは、ここから園舎の中に入ります。

幼稚園での一日の始まりです。

家から履いてきた靴を靴箱に入れ、園舎の中で履く靴に履き替えます。

靴を履き替えることで、土や泥で園舎内が汚れることを防ぎ、きれいな環境を保つことができます。

靴を履き替えて中に入ると、持って来た荷物、着て来た上着などを、自分のロッカー、あるいは、壁に金具が打ってある荷物かけに置きます。

荷物を置いたら、汚れてもいいよう、エプロンやスモックを服の上に着る園もあります。

それぞれが持ってきたコップやタオルを出してかける場所が用意されています。

保育室の中には、魅力的な遊び道具がたくさんあり、決まった場所に整理して置かれています。

いろいろなおもちゃ、楽器、おままごとの道具...子どもが自分で自由に出して遊べます。

また遊んだ後は、元あった場所に片づけます。



保育室には、畳やついたてで区切られた「ままごとコーナー」を設けています。

棚には、なべや茶碗、皿、スプーン、食べ物の模型など、いろいろなままごと道具がしまっておりま。

できあがったお料理を食器に盛ったら、テーブルの上に並べま。

保育室には、絵本棚があります。

子どもが喜ぶような絵本がそろえてあります。

子どもたちはいつでも好きな絵本を自由に取
り出し、読むことができます。

保育室の壁には、子どもたちの作品を利用し
て、色とりどりの装飾がなされています。

春には桜、夏にはひまわり、秋には色づいた葉
っぱ、冬は雪景色...と季節に合った飾り付けを
して、子どもたちに季節の移り変わりと日本の
伝統的な風物詩を伝えることもあります。



クラスの入り口には「くみ」という飾
りつけをして、自分たちがくみという
意識を自然に持てるようにします。

部屋の中には、誕生月ごとに子どもたち一
人一人の名前や写真、子どもたちが書いた
絵や作品をみんなが見えるように展示して
います。



保育室の中や廊下には、手洗い場があります。

外から帰ってきたときのうがい・手洗い、お弁当の
前の手洗い、歯磨き、などをここで行います。



保育室の中には、ほうき、ちりとり、ぞうきん、と
いった掃除用具が置いてあるコーナーがあります。

保育室の床のゴミを拾う、テーブルをふくなど、自
分たちで出来る簡単な掃除をします。

子どもたちが保育中にけがをしてしまったと
ときには、応急手当を行い、具合が悪くなった
子が出たら、ベッドでしばらく休ませる場所
が用意されています。

また、病気ではないけれど、静かにしてい
たい子どももここで過ごせます。

子どもたちの身長や体重の測定も、定期的
にここで行います。



それぞれの保育室にも、簡単な傷の手当てが
できるような救急箱が備え付けてあります。

子ども用のトイレです。

手洗い場や、ドアの取っ手は、子ども用に低い位置に小さく作ってあります。

また、トイレのドアは、教師が様子を見ることができるよう低くしてあります。

手洗い場とトイレの仕切りは、出入りしやすいように付けてありません。



ホール（遊戯室）です。

保育室よりも広い部屋で、どの組の子ども、自由に入って遊べます。

大勢で一緒に遊んだり、大きな身体の動きで遊んだりできます。

普段は子どもたちの遊び場であるステージは、月ごとのお誕生会や集会、発表会などの会場として使われます。



先生の部屋です。

ここでは、朝会、事務、教材の準備、職員会議など、子どもたちの保育の基盤となることが行われます。